

家庭科教育部会

I 研究の内容

1 生徒の実態にあった教材の研究 (検討項目)

(1) 製作手順のわかりやすさ

試作により検討…ファイルカバー、リバーシブルバッグなど。

(2) 布の扱いやすさ

手縫い、ミシン縫い共に製作物にふさわしい素材で縫いやすい布であること。

(3) 基礎縫いの内容

作品製作に必要な基礎縫いをあげ、製作に取り込みたい。(まつり縫い、スナップ付けなど)

(4) 作品の完成度と仕上がった後の使用頻度

作品を完成させることは生徒に達成感やもの作りの楽しさを感じさせることにつながる。また製作後に日常生活の中で活用できるような物であれば製作意欲も高まる。「作って楽しい、使いたい。」と思えるような教材を選びたい。

(5) 施設設備の状況 (ミシンの台数や整備状況など)

スムーズに製作を進めるためにはやはり、施設設備の点がある程度整っていないといけない。購入の必要な備品などは計画的に要求をしていく必要がある。

ミシンの点検も定期的に行いたい。

2 授業実践 (山梨北中学校 深澤麻美教諭)

本研究の授業実践として「生活に役立つものを作ろう～ファイルカバー作り～」を行った。次の点にポイントをおき実践をした。

(1) 導入部での工夫

事前に学習したスナップ付けの作業手順を映像で見せる。

→師範をビデオで撮りながらTV画面に映し、説明する。

(2) 展開部分での工夫

各班に昨年度作成した「基礎縫い(スナップ付け)手順カード」を配布し、作業をしながら確認をさせたり、机間巡視をしながら指導する。

(3) 授業を終えて(授業者より)

スナップ付けは、事前に練習したときから苦手としていた生徒が多かったので、授業をするにあたって不安があった。授業では「1度やったことがあるから」という気持ちではなく「もう1度確認しよう」という気持ちで臨んだ。そのため、

授業展開も「2枚重ねの1枚をすくうこと」「針に糸をかけること」など生徒が苦手としていた項目から具体的に確認するようにした。

画像が鮮明なビデオを用いて師範を拡大し説明をしたのは、生徒にとってわかりやすく効果的であったと思う。

班ごとに配布した「手順カード」は自分の進度に合わせて見ることができ、生徒の実習の手助けになると再確認できた。

今回の授業を通して、「教師が生徒のつまづきを予測し考えて授業を構成し行うことが大切であること」「視覚教材を効果的に使うことが生徒の理解に大いにつながること」を感じることができた。

II 成果と課題

1 成果

(1) 授業実践より

ア 導入時に事前に学習したスナップ付けを思い出させるために、師範をビデオでTV画面に映しながら説明をしたことにより確かな振り返りができ、スムーズなスタートにつながった。

イ 展開時に昨年作成した「基礎縫い手順カード(スナップ付け)」を各班に配布をし、実習中にいつでも確認できるようにしたことで生徒達が内容を理解しやすくなった。

(2) 3年間の衣生活における視覚教材研究より

ア 1年目…「基礎縫い実物見本」の作成をし実習時に活用。生徒が実物見本を見て確認しながら実習でき効果的であった。

イ 2年目…「基礎縫い手順カード(スナップ付け)」を作成し実習時に活用。拡大投影機で教師の手元を映しながらの技術指導もわかりやすい授業の展開につながった。

ウ 今年度…これまで作成した視覚教材の利用と、ビデオによる師範の映像を見せる等の工夫により、生徒達に理解しやすく作業効率の向上にもつながった。

2 課題

基礎基本をおさえ、もの作りの楽しさや完成の喜び、そして実生活で生かせるような教材教具の研究を続けており、年々成果は上がってきているように感じる。しかし実際の授業では、少ない実習時間の中でいかに生徒達に達成感を与え充実した授業を展開していくかは今後も課題であり、さらに研究を続けていかなければならないと思う。

III 成果物

- 1 視覚教材…基礎縫い実物見本、基礎縫い手順カード 2 授業案「生活に役立つものをつくろう～ファイルカバー作り～」
(部長 向山栄子)